

園芸に取り組んでみませんか？

新潟県の農業産出額は減少しています

- **新潟県の農業産出額は、19年間で約3割減少**しています。

農業産出額の過半を占める**米の産出額が4割以上減少**する中、園芸はおおむね横ばいで推移しています。

〔山形県でも、米の産出額は新潟県同様減少していますが、一方で園芸の産出額が増加（4割）したことで、県全体の農業産出額は19年前と同水準を維持しています。〕

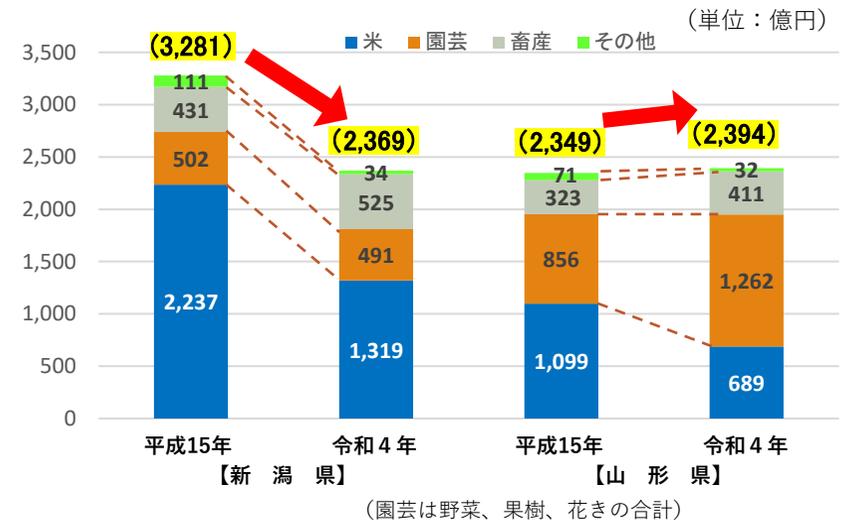
主食用米の需要量は今後も減少が見込まれます

- 全国の**主食用米の需要量**は、最近では**毎年10万吨程度減少**を続けており、今後も人口減少等から**需要量の減少が続く**と見込まれています。

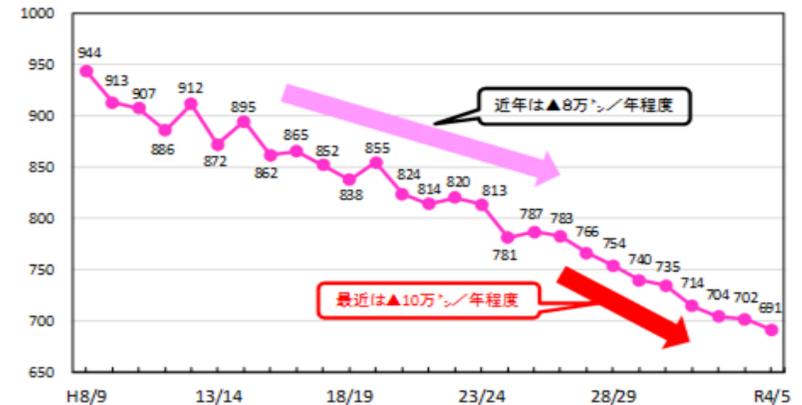
（参考）新潟県園芸振興基本戦略（令和元年度作成）の目標

- ・販売額1億円以上産地数を倍増させる。
- ・園芸の栽培面積1,000ha増を目指すとともに、新たに園芸に取り組む農業者の拡大を図る。

新潟県と山形県の農業産出額の比較



主食用米の需要量の推移



皆さまの農業経営を今後も持続・発展させていくため、稲作だけに依存せず、園芸への取組を検討されてはいかがでしょうか。

1. 園芸に取り組む際のポイント ～県内の園芸農家に訊いてみました～

園芸作物導入事例集は
こちら⇒



課題は何？

- ① 品目の選定
- ② 販売先の確保
- ③ 労働力の確保
- ④ 機械化

どのような対応をしましたか？

- ① ・ **地域で推奨**されている品目を生産
・ **土壌診断**により栽培適性を判断
・ **指導員、先輩農業者**からの助言
- ② ・ **J A 等**への出荷で安定的な販路を確保
・ **スーパーや直売所**に直接販売
・ **出荷時期をピークから外し**販路を確保
- ③ ・ 新規就農を目指す **農業研修生を受入**
・ **農福連携**の取組、**アプリ**を活用
- ④ ・ 汎用機械に **直進アシスト**を導入
・ **補助金を活用**し野菜収穫機を購入
・ **他の経営体と機械をシェア**し経費節減

活用した（したい）補助事業は？

- 《ほ場の整備・改善、作物導入》
- ・ 農地耕作条件改善事業
 - ・ 持続的生産強化対策事業（野菜・果樹支援）
- 《労働力の確保》
- ・ 新規就農者育成総合対策
 - ・ 農業労働力確保支援事業
 - ・ 農福連携整備事業
- 《機械・施設の導入》
- ・ 産地生産基盤パワーアップ事業
 - ・ 農地利用効率化等支援交付金
 - ・ 大規模園芸産地創出事業（新潟県）

2. 実需者のニーズ～バイヤーに訊いてみました～

県内のスーパーマーケットが欲しい野菜は何？

- 消費者には地元産へのニーズがあり、流通コスト面からも新潟県産野菜を増やしたい
- 適切な価格で安定した出荷が可能なら取り扱いたい
《特に欲しい野菜》
【青果用】 冬場のトマト、春先のアスパラ、小玉スイカ、種なしスイカ、さつまいも、かぼちゃ
【総菜用】（主に揚げ物用として）根菜類、果菜類
【冷凍用】 ブロッコリー、枝豆

3. スマート農業の活用

補助事業の詳細は
こちら⇒



園芸栽培でのスマート農機の活用事例

- にんじん栽培に **ロボットトラクター、ラジコン草刈機、収穫機**等を導入し作業時間を半減
- 梨の溶液授粉に **ドローン**を活用することで、1日かかる作業を5分程度で完了
- ミニトマト **自動収穫ロボット**で作業時間を削減
- きゅうり施設栽培に **環境管理システム（ICT）**を導入し、収量を増加、作業時間を削減